

令和4年 第10回 根室市教育委員会 会議録

1. 非公開案件の審議（会議録省略）

- (1) 議案第38号 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価に関する報告書の作成及び議会への報告について

結 論 原案どおり決定

- (2) 議案第39号 令和4年度教育費補正予算案を市長に提出することについて

結 論 原案どおり決定

- (3) 議案第40号 令和4年度根室市文化賞（奨励賞）の決定について

結 論 原案どおり決定

2. 意見交換

○目的

教育行政の課題についての情報共有、さらには頂いた意見を今後の事務を進める上での参考とするために行うもの

○テーマ「総合教育会議における議題について」

【教育長】

それでは、11月に予定しております市長との総合教育会議の中でこんな議題で語り合いたいというものがございましたらご発言をお願いいたします。

【委員】

根室の子供たちに根室の魅力についてもっと知ってもらいたいということを話したいと思っています。

【教育長】

委員の方でこういう取り組みをしたらいいと考えていることはございますか。

【委員】

先日、歯舞湿原の勉強会に参加したのですが、野鳥の数やネイチャーセンターのことですとかそういったことも盛り込んで、子供たちの興味をひくようにしてもらえれば、もっと地元のことを知りたいと思ってもらえるのではないかと考えております。

【委員】

根室市の根本的な問題として少子高齢化があると思います。これをどうしていくかとなると、今から子供を増やすというのは無理だと思います。根本的な問題解決のためにも、教育移住推進事業はどうかと考えています。この事例は成功しているところが多くて、子供を呼んだとなれば、それだけでその何倍も人口が増えて少子高齢化もある程度は改善をするのではないかと思います。教育移住は簡単な問題ではなく、教育だけでなく本当にトータルの部分で協力していかなければなりません、一つ取り組みとしては面白いのではないかと考えています。

【委員】

まちの成長というのは人口を増やすことが一番基本なのかなと思っていて、人口を増やすためにはいろんな要素があると思いますが、教育も当然大きな要因の一つと思っています。具体的には今の話みたいな形でいけば、当然教育をメインにして人を増やす形の体制ができないかと思っていますので、そんなことができればいいというのが1つです。

今、つくば市は研究学園都市となっていますが、高校の偏差値が上がったそうです。結局、研究学園都市に来た先生なのかスタッフなのかわからないですけど、関係者が子供を連れて住み始めたので、自動的に偏差値があがった。本来であれば地元の間人を育ててというのがベストですが、外から来てもらった人に刺激を受けて全体の学力が上がる。補足ですけど、人口を増やすには今の子供たちが外に出て行って戻ってくるのかというのも当然大切ですけど、元々もう先細ってきているので、外にいる人間に根室の魅力を知ってもらって、ふるさと納税でもかなり高額な納税をいただいているわけですから、根室に住んでもらうというような形を構築していけば少しはまちも大きくなっていくのかなと思います。

【委員】

子供と接して学校の方針とか、そこで疑問を感じたことですが、子供たちの学習は楽しくてやる気がわくような授業をしてもらいたいと思っています、忍耐とか努力とかってというのはやる気がわくから自然とできることだと思います。

それを感じたきっかけが子供のテストの採点で、○Aですか○Bですかという問題があって、Bと書いたら○Bと書いていないので不正解との採点でした。担任の先生に聞くと、「何もなかったら正解にしていたけれど、学校の方針なんです」と言われたんですね。点数はどうでも良かったのですが、そこで子供が「次はちゃんと○Bと書くぞ」とやる気が湧くのかと疑問に思いました。

もうちょっと柔軟に、それも正解でいいねとならないかと思ひまして、内容を理解しているとか、何を重要視しているのか、受験じゃないので落とすためのテストではないと思うので、その中で先生方も学力をどうにか高めようと一生懸命頑張っていたいて思うのですが、そういうところで不正解にするというのは高校に入ってからとかでもいいのではないかなという実感です。

先生からの説明は学校全体で統一して、例えば1組だとこれなら正解、2組は不正解になる、ということ避けるためですとのことでしたが、その考え方を議題にしていただけならなと思います。

【教育長】

ありがとうございます。以前からお話しております、花咲港小学校をインクルーシブの学校にしていくということで移住も含めて考えています。今学校に言っているのは、先生が教える授業をやめろということです。

実は次回のテーマですが、子供が自ら学びとる家庭学習へとかまさしくこういう学びにしていきたいと考えています。究極は子供が自分の1週間の時間割を作れるような子供になる、その中で根室の魅力に自分で気づいて発見していくような力を持つ。そういう他の地域でやっていないような教育を市内全体でできたら、その教育を受けてみたいと1人でも2人でも感じてもらえればと考えています。

実際に根室高校の受験倍率は 1.0 で受けたら誰もが合格しますし、そういった中で、1 点 2 点をどうするか、隣のクラスと揃えなければならないという理屈はないと思います。

【委員】

事業改善通信という取り組みはすごいですね。6 月 1 日の時点で No101 となっていますが、どれだけ出しているんですか。

【学校教育指導主幹】

もともと授業改善推進チームは市内の 3 小学校に配置されている先生方が市内 3 小学校を輪番制でまわって、その学校でこういう授業にしましょうという取り組みを評価しながらこの通信をやってきています。今年で 4 年目に入り、毎週出しています。学校はできるだけ子供が気づいた、また集団思考の考えを高めようと、そういう授業を進めるために授業改善の通信を出したりして先生方どうして授業を変えていこうとの取り組みです。

先ほどのテストの回答のところを、もっと配慮ができるような授業に今後変えていこうという取り組みで、こういう通信を出しています。

【委員】

先生から先生への通信なんですか。面白いですね。

【学校教育指導主幹】

臨休中に自分でやったことをロイロノートスクールで動画を載せていますが、これが宿題なんです。宿題をこういうタブレット端末に載せて、課題解決の宿題を各学校で出せるようにと声かけをしているところです。どこまで改善されるかわからないですけども、そういう取り組みをしているところです。

【教育長】

2 年前の全国一斉臨時休業期間中に、日本全国どこの学校も自ら学ぶ子どもだとか、主体的に学ぶ子どもを育てますと言っているにもかかわらず、一斉休校期間中に自分で勉強した子供はどれだけいたのだろうという強い反省があるんです。今まで、学校は自ら学ぶ子を育てようとしていたけれども、実際一斉休校になったら与えられる宿題を待っている。ということは自ら学ぶ子を育てていなかったのではないか。ということは学校の授業の中で先生の言う通りにしかしない子供を育てている。それって本当に目指している姿なのか、そうではなくて、今度もし一斉休校になったとしても、僕はこんなことで頑張ってみたいということと言える子供をどう育てていくか。それが要するに地域に出ていったときに、地域の中で課題や問題を見つけて、自分はこうしていきたいって言うかどうか。そのためには自分で時間割ぐらいは作れる必要があるし、学級という枠を取っ払って他の学年と学ぶということも必要だろうし、あとは学校の先生の意識、それを今後どうしていくかということです。

【委員】

先日授業参観があつて、理科の授業で台風の動きを班で話しあう授業で、子供たちは台風はどう動くのか iPad で調べながら最後に発表することもなく、調べてわかったことを iPad で先生に送ってくださいと終わっていました。保護者の中では「これ参観日に来た意味あったかな」みたいな意見が結構あったので、私はこういう授業が行われていて良いなと思つていますが、ただ、これだったら参観日じゃなくてもよかつたよねという意見がかなり多かつたので、保護者の方にも今はこういうふうになつていて、こういう良い点があるということを知っていく必要があると感じました。

【教育長】

その周りの保護者さんの意見というのは、要するにその授業の中で自分の子供が活躍する姿を見たかつたということでしょうか。

【委員】

多分ですが、先生が問いかけて手を上げて答えるみたいな授業を見たかつたのではないかと思います。そこまでは詳しく聞かなかつたのですが、我が子が発表しているな、教科書をちゃんと読んでいるな、という様子を見たかつたのではないかと思います。

【教育長】

要は友達と話し合つているだけではないかということですね。

【委員】

ぱつと見はお喋りしている感じです。床に寝そべつてとか iPad で頭を付き合わせて話している。雑談しているとか、関係ない話をしてそうな子はいなかつたです。本当に一生懸命話をしていたし、ちょっと笑いがあつたりとか、他の班に顔を出してみたり、授業方法がなつてきているなという感じで、他のもう一つの組は社会の授業だつたと聞きましたが、そちらの組も同じような授業の仕方で、保護者はやっぱりもうちょっと違う授業がいいかな、ということを知つていたと聞いています。

【教育長】

ありがとうございます。そういう方向性で組み立てたいと思います。

午前11時00分 閉会